

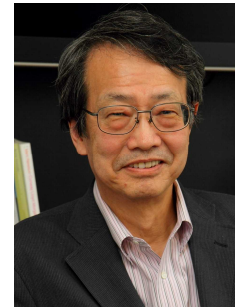
1. 研究課題名：

汚染地域の実情を反映した効果的な除染
に関するアクション・リサーチ

2. 研究代表者氏名及び所属：

鈴木 浩

財団法人地球環境戦略機関（IGES） / 福島大学名誉教授



3. 研究実施期間：平成 24～26 年度

4. 研究の趣旨・概要

福島第一発電所の事故に伴い放射性物質が拡散し、住民の避難や活動の制限が継続する中、速やかに除染が行なわれ、故郷に復帰したいと多くの住民が望んでいる。本研究では、2012年度から本格的に実施される国、市町村等による除染のための取組をより効果的なものとするために、除染に関する効果的な法制度や仕組、地域条件を反映した除染計画の策定、地域住民との効果的なリスク・コミュニケーションについて提案を行う。チェルノブイリ事故により培われた欧州の知見や経験を最大限に活かし、欧州の研究者や福島の地元に通じる研究者を含む専門家による学際的チームを組み、市町村やコミュニティと連携しつつ、実践的な助言や提案を目指す。

5. 研究項目及び実施体制

①除染に関する効果的ガバナンスに関する研究

（財）地球環境戦略研究機関

②地域条件を反映した除染計画の策定に関する研究

（財）地球環境戦略研究機関

③協働を促進する地域住民とのコミュニケーションに関する研究

（財）地球環境戦略研究機関

6. 研究のイメージ

「汚染地域の実情を反映した効果的な除染に関するアクション・リサーチ」



生活、商業活動の再開に向けた様々な事情から、除染現場では混乱が見られる

放射性物質に汚染された地域の実情を理解し、欧州の知見や経験を生かしつつ、効果的な除染活動への寄与

ガバナンス・除染計画・住民コミュニケーションの3側面からの総合的アプローチ

